教員名	高松 正毅	所属学科	経営学科

【ゼミでは何を学ぶのか】

当ゼミは、何かを「学ぶ」ゼミではありません。高松ゼミは「鍛え、身に付け」るゼミです。何かを学ぶことは、各人が好きなように好きなだけ行うことになります。

では、何を鍛え、何を身に付けるのか。それは「日本語の運用能力」です。運用能力とは、日本語を自由自在に扱える能力であり、大勢の人の前で堂々と話せ、きちんとした文章がすらすらと書けることです。

【どのように学ぶのか】

話せるようになりたければ、話さなければなりませんし、書けるようになりたければ、書かなければなりません。つまり、鍛え、身に付けるために必要なのは一にも二にも「練習」です。何も話したくないし、何も書きたくないという状態では、それこそお話になりません。

ですから、まず、話したくなる、書きたくなる必要があります。では、話したくなる、書きたくなるためにはどうすれば良いのでしょうか。

「ねえ、聞いて」と人が言うとき、そこには必ず語り伝えたい内容があります。ここで「学び」が登場するわけです。

人に伝えたい、言って聞かせたい内容を、あらかじめ自ら進んで学びましょう。調べ、学び、知ることによってのみ、述べるべき内容はかたちづくられます。

「学ぶ → 口頭発表（プレゼン）する → レポートにまとめる」という一連の行為を1～2ヶ月単位で繰り返し、学期ごとにもレポートを作成します。口頭発表するために勉強し、口頭発表したものは必ずレポートにまとめ、レポートをまとめるためにさらに勉強する。これらを、ひたすら繰り返します。

勉強する内容はすべて自分で決めてOK。研究手法さえ正しければ、アニメや漫画、ライトノベルなどを研究対象にすることもできます。いくらでも相談にも乗りますから、どうか好きなことを好きなだけとことん学んでください。

【学んだことはどのように生かせるのか】

英語ができないのも、数学が苦手なのも、実は日本語の運用能力が低いからです。

言語（日本語とは限りません）の運用能力に欠ける社会人は、仕事での成功は望めません。公的な場で話ができ、社会で通用する文章が書けることは、業種･職種を問わず必須の能力です。なお、2020年度からの大学入試改革では、学生の意欲や適性を「面接」によって測る選抜への転換が求められています。

【おすすめの入門書・基本テキスト】

カーマイン・ガロ（2010）『スティーブ･ジョブズ 驚異のプレゼン』日経BP社

戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

小中高と「国語」を12年間も学ぶのに、人の前で話せないし、きちんとした文章も書けない。使い物にならない勉強は無意味・無価値です。さっさと得点力を上げて入試を突破し、大学で本物の勉強をしてください。